

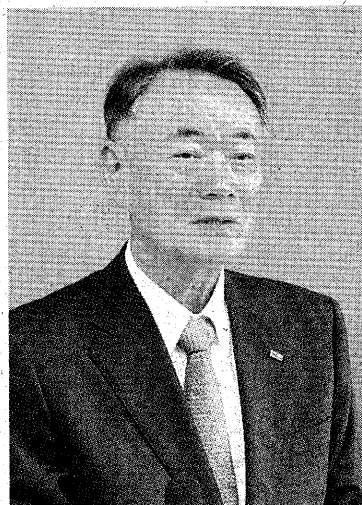
中国電力の清水希茂社長の一問一答は次の通り。

—3号機の必要性について疑問の声が相次いだ。

「2023年ごろには運転開始から40年以上になる山陽側の火力発電所(の出力合計)が500万瓩を超える。いずれは(他電源で)置き換えていかねばならないが、一朝一夕にはできない。その一環が3号機だ」
—山陽側の火力発電所の休廃止計画をいつ示すか。

「準備が整ったらしかな言えない。年限は考え

中電・清水社長 一問一答



記者団の取材に応じる清水希茂社長(松江市殿町、県庁)

山陽側火電代替の一環 休廃止示す年限考えず

ていない。該当自治体と立地自治体並み安全協定調整し、相当な準備をしの締結にはどう対応するて具体的な名前を発表するか。

—周辺自治体が求める

限を周辺自治体に拡大した。日本原子力発電東海第2原発の事例は十分に把握しているが、どのよう運用になるか(分

か。「新規制基準にとどまらず、世界の原発を見て有効なものがあれば取り込み、さらに安全性の向上を目指すというのが基本姿勢だ」

—住民への説明は十分に果たしたといえるか。

「相当な意見が出たことはしっかり受け止めている。規制委の審査状況は丁寧に説明する。国民がエネルギーの問題をどう考えていくのか、議論が深まる働き掛けをした方がいいのかなと考えている」

「とにかく誠意を持って協議したい」
—規制委の審査で安全性は担保できるとの認識

(高橋利明)